

「GAP」でより良い農業経営を！

GAP（Good Agricultural Practice）とは、農産物（食品）の安全を確保し、より良い農業経営を実現する取組！

- 農産物の生産で最も重要なことは、食品としての安全を確保することです。
- **食品安全**だけでなく、**環境保全**、**労働安全**、**人権保護**、**農場経営管理**に関する取組を行うことで、持続可能な農業生産につながります。
- GAPは、これらの取組状況を記録簿や掲示物によって確認・表示しながら、**農業活動を改善することで、より良い農業経営を実現する取組**です。

GAPを実施すると、経営の改善に効果があります！！

GAP実施による経営改善効果



「改善した」と回答した者の割合

出典：「GAP導入による経営改善効果に関するアンケート調査結果」(H25.1（独）農業・食品産業技術総合研究機構)を基に農林水産省生産局農業環境対策課で作成

あなたの身の回りにもリスクが潜んでいます！ **-GAPでリスクの軽減を-**

⚠ 異物混入

農産物にハサミやガラス片などの異物が混入すれば、消費者はもちろん作業にも危険が及びます。また、異物混入が発生した農業者だけでなく、産地全体で出荷停止や商品回収を行うことになり、大きな損害を受けることが考えられます。

⚠ 農作業事故

毎年300人以上が亡くなっており、死亡・重傷事故1件が発生する背景には、軽傷事故が29件、もう少しで怪我をしたかもしれない事故（ヒヤリ・ハット）が300件あると言われています。

